

令和6年度 島根県学力調査結果及び分析

松江市立出雲郷小学校

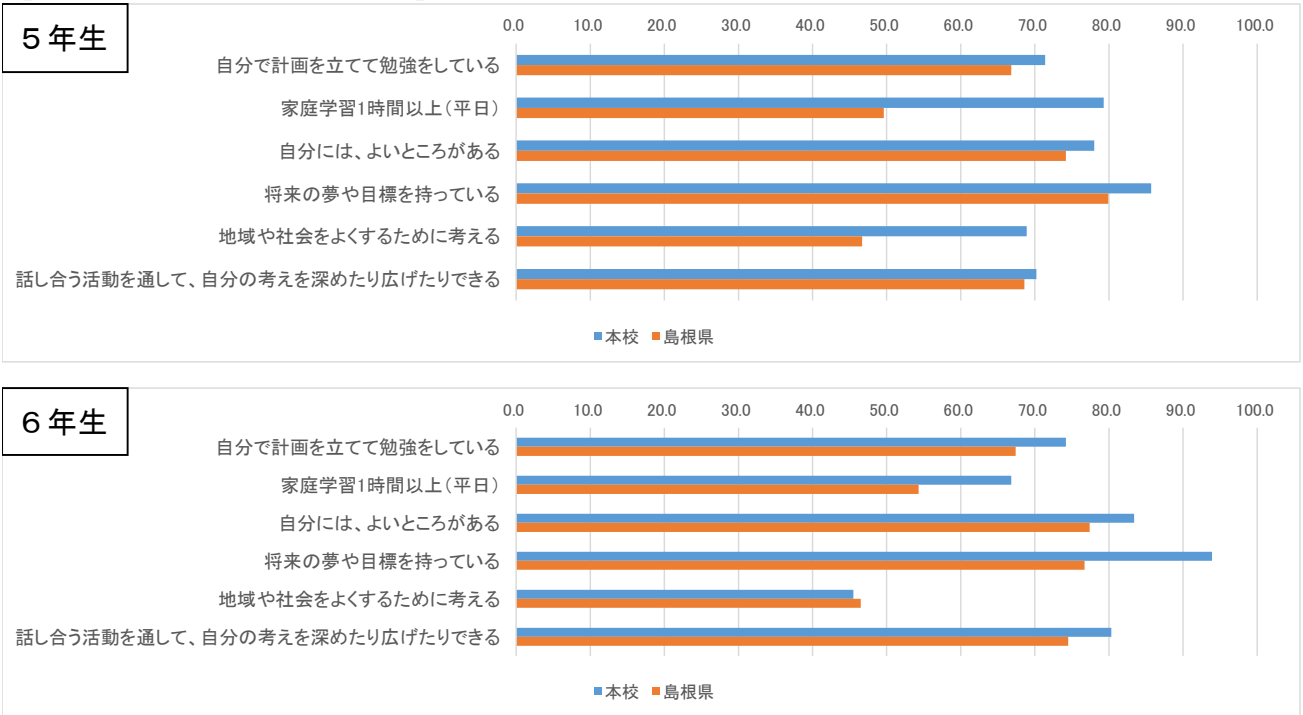
【1】「教科に関する調査」結果から見られた成果と課題（○成果／●課題）

	5年生	6年生
国語	○スピーチ活動等対話力の育成に力を入れたことから、話し手の目的に応じて話の内容をとらえたり、立場を明確にして計画的に話し合ったりする力が付いている。 ○図書館資料の利用や、自分の考えを書く場を設定したことから、情報を関連付けて理解し、目的に応じて文章を書く力が付いている。 ●提示された条件を踏まえて文章を書く力が十分ではないため、条件を提示して文章を書く活動を継続的に取り入れていく必要がある。 ●叙述を基に説明文を読み取る力が十分ではないため、文章の構成や情報を整理してとらえ正確に内容が読み取れるようにする必要がある。	○「話すこと、聞くこと」の領域では、全ての問題で目標値を大きく上回っている。これは、毎朝のスピーチ活動や日頃の授業で対話を意識した取組の成果だと考えられる。 ●「書くこと」の領域では、全ての問題で目標値を下回り、全ての問題で無解答率が18.2%となっている。無解答の状況の要因として時間が足りなかったと考えられる。問題を速く正確に解く力を付ける必要がある。また、日々の授業の中で書く時間をしっかり確保し取り組んでいく必要がある。
算数	○合同の図形や体積など図形に関する理解ができている。 ●小数のかけ算や割り算についての理解が十分ではないことから、計算会の出題の仕方を工夫しながら、小数の計算の仕方が定着していくようにする必要がある。 ●整数の性質について、単位量当たりの考え方の理解が十分ではないことから、十分に考え方が定着していない単元については、復習の時間を確保していく必要がある。	○分数のかけ算・わり算の計算は、全ての問題で目標値を大きく上回っている。これは、毎月の計算会で計算力が鍛えられた成果と考えられる。 ●全問題を通して無解答率は低いものの、「データの活用」で理由を言葉で説明する問題では16.7%と多くなっている。授業の中で、自分の考えを説明する場を多く取り入れる必要がある。

【2】「意識調査」結果から見られた成果と課題（○成果／●課題）

	5年生	6年生
意識	○自己肯定感が高く、夢や目標をもって前向きに生活している。 ○話し合いの場を様々な場面で持つことで、話し合う活動を通して自分がよりよくなると肯定的にとらえている。 ●家庭学習について時間的には十分な結果が出ているが、内容は十分と言えないところがある。今後、自主学習等のよりよい取り組み方を指導していきたい。	○県平均よりも肯定的に答えている児童の割合が大きい。将来の夢や目標をもっているからこそ、学習にも前向きに取り組むことができていると考えられる。 ●地域や社会まで目を向けられていない児童が半数いることから、地域や社会に目を向ける時間を確保したり、関わりを持ったりする時間の確保が必要であると考えられる。

【3】「意識調査に関するデータ」（教育委員会として注目している項目のうち全国調査と同様の質問項目を挙げています）



【R6学力調査受検者数】

5年生

77

名

6年生

66

名

(欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は最少の受検者数をもって表示)